

# 交換留学報告書

派遣先	
三重大学での所属学部・研究科	人文学部文化学科
学年(出発時)	三年
大学名	ハイデルベルク大学
国	ドイツ
留学期間	2013年 9月 1日 ~ 2014年 8月31日
派遣先での身分	交換留学生

一日の生活スケジュール(通学時)	
8:00	
9:00	
10:00	授業
11:00	授業
12:00	授業
13:00	授業
14:00	昼食を取りながらタンDEM
15:00	タンDEM
16:00	タンDEM
17:00	タンDEM
18:00	タンDEM
19:00	買い物
20:00	帰宅
21:00	宿題、自由
22:00	宿題、自由
23:00	宿題、自由
0:00	

履修科目				
科目名	時間数/週	履修単位	使用言語	授業内容(レポート、試験、授業形態等)
ドイツ語	2		ドイツ語	交換留学生用のドイツ語の授業
教会史	1		ドイツ語	宗教改革時の歴史
語彙	1		ドイツ語	ドイツ語語彙
文学	1		ドイツ語	第一次世界大戦時の文学

大学のサポート	
チューターの有無	無
チューターのサポート内容	無
語学コースの有無	有
コース名、料金、期間等	

生活	
住居のタイプ	学生寮
住居の名前	Im Neuenheimer Feld
部屋タイプ	一人部屋
ルームメイト(国籍)	
室内設備	良い
共用施設	洗濯機、ゴミ捨て場
インターネット設備	有
大学までの交通手段(交通機関、所要時間)	バス、30分
アルバイトの有無	無
アルバイトの内容	

渡航	
Visaの種類	学生
Visa申請先	市役所
Visa取得にかかった日数	一か月
Visa取得にかかった費用	50ユーロ
Visa取得方法、提出書類等	市役所に行き、必要書類を書く(既に忘れてしまいました。申し訳ございません)
留学先大学の最寄り空港までの経路	バス
渡航費用	20万弱
ピックアップサービスの有無	有

帰国後	
留年や卒業の遅れの有無	有
有る場合、その理由	卒論を書いていない、進路が決定していない。
就職活動開始時期	帰国後
帰国後の進路	就職

留学にかかった費用	
現地通貨＝日本円(約)	1ユーロ=140円
保険料(海外旅行保険、国民健康保険等)	12900円
学費(教科書代や語学コース授業料等)	100ユーロ
宿舍費(月額)	300ユーロ
光熱費(月額)	
食費(月額)	100ユーロ
その他	100ユーロ
留学期間中にかかった費用の合計	120万

**感想等(※800字以上で語学勉強の成果についての内容も含め、ご記入ください。)**

思えばあっという間に過ぎ去った日々でした。ドイツに、ハイデルベルクに到着した最初は不安で仕方ありませんでした。右を見ても左を見てもわからないことばかりか、頼る相手すらいませんでした。当たり前のことですが、日本で自分を助けてくれた家族や友人は海外にはいません。そんな中自分で、或は新たに頼る相手を見つけてこなしていくのは容易とは言い難いです。それでも、徐々に生活に慣れていき、日本にいたころとは一味違った方法で充実した日々を送っていくことが出来ました。そんなドイツでの生活で一番苦労したことは、やはり語学だと思います。語学は一朝一夕に身に付くものではありません。いくら生活リズムをつかみ心身ともに安寧を保とうとも、語学にそれはありませんでした。ここで、留学前のドイツ語学習が怠惰であったことを自白しますが、それを差し置いても第二外国語を不自由なく使いこなすには多大なる根気と努力を要すると思います。ハイデルベルクに留学した理由の中に「ドイツ語の向上」は勿論ありました。そんな私がハイデルベルクで積極的に行ったドイツ語学習は「ドイツ人学生と話す」ことです。日本でも「ドイツ語学習」は出来ますが、「聞き取り」や「話す」ことには限界があると思います。ですから、机上での学習を差し置いてでも、なるべくドイツ人学生とドイツ語で話し、「生のドイツ語」で学習するよう心がけました。当初は何を言っているかわからず四苦八苦しました。恥ずかしながら日本語や英語で話すことも多々ありました。それでも、数をこなして行くことで徐々にではありますが聞き取れるようになりました。これは個人差があることと思いますが、概して根気のある学習だと思います。それでも、ドイツ人とドイツ語で会話し、お腹から呵呵大笑できたのは本当に良い思い出です。勿論、日本語で面白いことがドイツ語でも面白いわけではありません。だからこそ、同じ感覚を共有したり、自分の意見を口にし相手に理解してもらえた時は本当に嬉しかったです。留学において語学だけが「成果」ではありません。それでも、第二外国語で現地の人々と意思疎通を図れたことは何物にも代えがたい経験となりました。

### 今後留学する人へのアドバイス

「卒業が遅れる」「お金がない」「不安だ」あらゆる理由で留学を足踏みしてしまうことと思います。それでも、もし迷っているなら留学すべきだと思います。本当に行きたいなら、いろんな人に相談したり、制度を探してみたりすべきです。そこまで手を尽くした留学であっても、必ず「楽しかった」「最高だった」と言えるとは限りません。それでも興味があって躊躇っているなら留学してみたほうが良いと思います。新しい世界で一人から自分でオーガナイズしていくのは骨を折ることになりますが、精神的に強くなれます。これは、一生自分の糧となることでしょう。その中でも「交換留学制度」はお勧めです。行ってみたらわかるのですが、交換留学は何かと優先されています。実際は自分でやらなければならない手続きがある程度学校が行ってくれます。住まいの心配も少なくいいのも魅力的です（住まいがなく、「しばらくはホテル暮らし」なんて話も珍しくないです）。ですから、迷っているなら一歩踏み出してみてください。一歩踏み出した世界では、あなたのやる気を後押ししてくれるものがたくさんあります。小さなことから、始めてみてはどうでしょうか。

報告書記入日

2014年8月19日